

金剛寶戒寺便

<https://www.houkaiji.jp>

令和六年十二月一日発行 第二二九号

檀信徒の皆様、こんにちは。へびに足は無いはずですが新年の足音が聞こえてきました。皆さまお元氣で過ごしてはいかが？寒さが厳しくなる折、どうぞお身体を大切に、風邪や感染症にお気をつけください。

八日の講習会では、ひすいこたろう著「あした死ぬかもよ？」～人生最後の日に笑って死ぬる27の質問～をテーマに取り上げました。この本は、人生の終わりに向き合いながら、日々をより深く生きるための27の問いを提案する内容です。

お釈迦様の教えに四馬（しめ）の比喻という例え話があります。四種類の馬に例えられるこの話は、人が死や無常に気づくタイミングを象徴しています。

一頭目…振り上げられたムチの影を見て走りだす馬（隣村の葬式を見て気づく人）

二頭目…ムチが毛に触れて走りだす馬（自分の村で隣人の死を見て気づく人）

三頭目…ムチが肉に当たって走りだす馬（身内の死によって気づく人）

四頭目…ムチの痛みが骨に響いてから走りだす馬（自らの死に直面して気づく人）

私たちは皆、死ぬことを知っています。格差の時代であっても誰もが平等に通るのが「死」です。しかしながら「自分の死」と

「他人の死」は何故か別物のようにとらえがちです。本書では、死という避けられない現実をしつかりと認識し、どのように捉えるか、そしてどのように生きていくかを問いかけています。法話会の後では、現職で介護士の参加者さんが自分自身の入院を通して気が付いた介護の大変さや有難さ、そして恥ずかしさを語ってくださいましたが、経験以上の説得はないものだと思います。決してネガティブになる本ではありませんので、ぜひお正月休みにお読みいただければと思います。

また十九日には仏教会の法話会として、香川県高松市の弘憲寺住職・長尾宗学師をお迎えし「生かせいのち 人を喜ばせたい」という演題で法話をしていただきました。ご法話では以下のようなお話がありました。

モスバーガー元社長・櫻田厚氏の教え…掃除を徹底し、店の両隣まできれいにする精神や、信頼に基づく経営の秘訣が成功につながったこと。

医師・服部匡志氏の利他行…権力闘争を避け、医療機器購入のために自宅の頭金まで使い、ベトナムで診療を続けたエピソード。服部医師は「アジアのノーベル賞」と呼ばれるマグサイサイ賞を受賞しています。

仏教の教えである「自利利他（自分のためにも他人のためにもなる行い）」は、現代の経営や人間関係にも通じています。高い志があれば多くの人を動かす力があり、その教え

を私たちの日常生活にも活かせることを学びました。

また、高松市の自坊では、大けがをした信者さんが、自分の願望と愚痴ばかりを口にするので、長尾住職が周りへの施しの大切さを説き、その信者さんが施しを実践すると、まづ人相が変わり、ケガの治療をする中の検査で早期の甲状腺ガンが見つかったお話もされています。不運と思われたケガが功名となる、自利利他を興味深く聞かせて頂きました。法話会の後には参加者様から歳末助け合いの募金として四万六千円をお預かりいたしました。誠にありがとうございます。

年末年始のご案内

護摩供養ならびに除夜の鐘つき

日時 十二月三十一日（火曜日）

時間 二十三時四十五分ころから二時間位
国重要文化財 ご本尊 大日如来 御開帳と護摩供養ならびに除夜の鐘つき

法話の会

日時 令和七年一月八日（水曜日）十四時から

場所 金剛宝戒寺 檀信徒会館

講師 功德院住職 松島龍戒 師

演題 「仏教健康法」

写経の会（会費五百円）

日時 一月二十一日（火曜日）十四時から

本年も大変にお世話になりました。皆さまのご多幸を心よりお祈り致します。 合掌